

旭区の自然—城北ワンド—

ワンドとは河川の両岸に見られる池や湾状の地形のことです。淀川のワンドは明治初期に行われた淀川大改修の際に設けられた水制(船がとおれるよう、水流を中央部に集めるため、両岸から垂直に築かれた石積み)が元となり、その水制の間に自然に土砂が溜まってできました。令和4(2022)年3月時点では淀川全体で90個あり、旭区の城北地区には19個が集中し、城北ワンドと呼ばれています。天然記念物に指定されたイタセンパラをはじめ、生き物の宝庫として知られています。1983(昭和58)年に完成した淀川大堰によってワンド内の環境が変化したことや、外来種生物の影響を受け、淀川の生態系の象徴とされるイタセンパラは激減して生息の確認ができなくなった時期もありましたが、人工繁殖個体の放流や人工ワンドの整備、外来魚や外来植物の駆逐など、官民一体となつての環境保全活動が進められた結果、令和4(2022)年調査では第10世代目と考えられるイタセンパラが確認されています。

『旭区史』大阪都市協会編集 旭区創設五十周年記念事業実施委員会 1983 *ID 0070035195

『旭区地域史 -旭の今昔-』旭区制90周年記念事業実行委員会 大阪市旭区役所 2022 *ID 0015297524

『旭区地域史 -旭の今昔- 改訂』旭区の今昔を知る会編 大阪市旭区役所 2018 *ID 0014764906

大阪市旭区役所ホームページ「旭区地域史」を発行しました「旭区地域史 -詳細版-」

<https://www.city.osaka.lg.jp/asahi/page/0000174707.html>

『淀川と人間』大阪工業大学工学部淀川環境教育センター 2013 *ID 0012692331

『淀川 -教材資料集- 改訂版』大阪・淀川教材研究会 2019 *ID 0014715941

『淀川 -自然と歴史-』鉄川精〔ほか〕著 松籟社 1979 ID0000253630

この調べかたガイドでは、旭区をテーマに4つのトピックを選び出し、それについて調べるのに役立つ情報源を、わかりやすく紹介しています。

ID 大阪市立図書館の「書誌ID」(お問い合わせの際にお伝えください)

旭図書館に所蔵しているものは、IDの前に*をつけて表示しています。(*の無いものも所蔵館から取り寄せできます。)

紹介した資料やホームページなどはほんの一例です。図書館ホームページ「おおさか資料室」や各館のページにも「よくある質問」や区に関する資料のリストを掲載しています。より詳しくお知りになりたいときは、図書館のカウンターへご相談ください。図書館司書がお手伝いします。

調べかたガイド:各区版

旭区の調べかた

旭区の史跡・名勝・建築

—森小路遺跡—

旭区を知る—千林商店街—

旭区の民俗・文化—平田の渡し—

旭区の自然—城北ワンド—

旭区の花



ハナショウブ

旭区の
マスコットキャラクター



しょうぶちゃん

大阪市立旭図書館

〒535-0003 大阪市旭区中宮1-11-14

TEL 06-6955-0307

<https://www.oml.city.osaka.lg.jp>

開館時間 火～金曜日(第3木曜日は休館)

10:00～19:00

土・日曜日、祝・休日、7/21～8/31の月曜日

10:00～17:00

休館日 ●月曜日、第3木曜日(祝・休日は開館)

7/21～8/31の月曜日は開館

●年末年始 ●蔵書点検期間

旭区の調べかた

Ver. 3 2023.10改訂

旭区の史跡・名勝・建築—森小路遺跡—

森小路遺跡は、新森中央公園を中心に半径 300m の範囲に広がる弥生時代中期から古墳時代にかけての集落遺跡です。発見された当時は、市内最低平地遺跡(標高 2.8m)として注目されました。1931(昭和 6)年 5 月、土地区画整理事業中に新森 2 丁目から清水 1 丁目にかけて発見された遺跡で、石包丁、石斧、石槍、石錐などのほか、弥生式土器、須恵器などが多数発掘され、その土器から弥生中期前葉の遺跡と推定されました。現在、新森中央公園内に大阪市顕彰史跡を示す「森小路遺跡」の碑が建てられていますが、当時この地は淀川の沖積作用によってできた河内潟の三角州の一部であったと推測されています。

なお、旭区民センター内にある郷土資料室には、遺跡で発見された出土品の一部が展示されています。

『旭区史』大阪都市協会編 旭区創設五十周年記念事業実施委員会 1983 *ID 0070035195

『旭区地域史 -旭の今昔- 改訂』旭区の今昔を知る会編

大阪市旭区役所 2018 *ID 0014764906

大阪市旭区役所ホームページ「旭区地域史」を発行しました「旭区地域史 -詳細版-」

<https://www.city.osaka.lg.jp/asahi/page/0000174707.html>

『新修大阪市史 1 巻』新修大阪市史編集委員会編 大阪市 1988 *ID 0000342129

『新修大阪市史 史料編 1 巻 考古資料編』大阪市史編集所編 大阪市 2004 *ID 0010691597

『なにわ考古学散歩』大阪市文化財協会編 学生社 2007

*ID 0011551653

『大阪の歴史と風土』宮本又次著 毎日放送 1973

*ID 0000253664

『大阪市旭区森小路遺跡発掘調査報告 1』大阪市文化財協会 2001 ID 0010244885

『大阪市旭区森小路遺跡発掘調査報告 2』大阪市博物館協会大阪文化財研究所 2012 ID 0012553578

『大阪市旭区森小路遺跡発掘調査報告 3』大阪市博物館協会大阪文化財研究所 2013 ID 0012727437

旭区を知る—千林商店街—

千林商店街の地域は、1910(明治 43)年 4 月 15 日京阪電軌鉄道が開通して千林駅ができ、商店の数も増え、大正年代の後半より人口が増加し、商業地域へと発展しました。1931(昭和 6)年、市電守口線が開通、国道一号線も完成し、同年京阪電鉄

の軌道敷の移動に伴い千林駅も移転、駅と国道一号線を結ぶ街路の商店街を促進し、これが現在の千林商店街となりました。

戦後の千林商店街については、『パノラマウオーク大阪の商店街 上』に千林商店街の項目があり、1955(昭和 30)年以降の千林商店街が簡潔にまとめられています。

『旭区史』大阪都市協会編 旭区創設五十周年記念事業実施委員会 1981 *ID 0070035195

『元気のある商店街の形成 -千林商店街とその周辺-』石村真一著 東方出版 2004 *ID 0010711613

『パノラマウオーク大阪の商店街 上』大阪市商業振興企画編 大阪市経済局 1998 *ID 0000684575

『大阪人 2008 年 1 月号 旭区萌え』大阪市都市工学情報センター 2008 *ID 5111546354

千林商店街ホームページ <https://www.senbayashi.com/>

旭区の民俗・文化—^{へいた}平田の渡し—

平田の渡しは 1676(延宝 4)年頃に個人経営として発足した、現在の東淀川区豊里と旭区太子橋、淀川の対岸を結んでいた渡し船です。「平田」の名の由来については、渡守(わたしもり)の平太が経営にあたったからだとか、大坂町奉行から認可を受けて手広く渡船業を営んだ土豪澤田佐平太の名から取ったものではないかといわれていますが、渡しのあった地名(西成郡平太村)から来たとも考えられています。1907(明治 40)年に府営となり、当時の渡し賃はおとな 2 銭、こども 1 銭、牛馬 4 銭で、1 日の利用客は約 100 人ほどでした。1925(大正 14)年の市域拡張で大阪市営となり、市営となるのと同時に無料になりました。戦後、周辺の市街地化で利用者が増え、20 人乗りの手漕ぎ船から、1960(昭和 35)年には発動機船を就航させるに至りました。しかし 1970(昭和 45)年 3 月豊里大橋の完成により、淀川最後の渡しとなった平田の渡しも 290 余年の歴史を閉じました。現在東淀川区と旭区の両岸に平田の渡し跡碑が建てられています。

『淀川流域の伝承』三善貞司著 大阪市淀川区役所 2004 *ID 0010805369

『大阪市渡船場マップ』大阪市建設局渡船事務所 2000 *ID 0000818246

『旭区史』大阪都市協会編 旭区創設五十周年記念事業実施委員会 1983 *ID 0070035195

大阪市旭区役所ホームページ「旭区地域史」を発行しました「旭区地域史 -詳細版-」

<https://www.city.osaka.lg.jp/asahi/page/0000174707.html>

『大阪史蹟辞典』三善貞司編 清文堂出版 1986

*ID 0000214926

『角川日本地名大辞典 27 大阪府』角川書店 1983

*ID 0000184865